

第 30 回日本災害医学会総会・学術集会 記念大会 プログラム

■開会の辞

1 日目 (3 月 6 日) 9:00 ～ 9:10

第 1 会場 (コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A)

■会長講演

1 日目 (3 月 6 日) 13:40 ～ 14:10

特別企画会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C)

海とともに生きる！

座長 高橋 昌 (新潟大学)

会長講演 海とともに生きる！

名古屋掖済会病院 北川 喜己

■基調講演 1

1 日目 (3 月 6 日) 9:50 ～ 10:50

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

愛・地球博からのメッセージ

座長 井上 保介 (社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 救命救急センター)

KN1 愛・地球博からのメッセージ

愛知医科大学 名誉教授 野口 宏

■基調講演 2

1 日目 (3 月 6 日) 14:20 ～ 14:50

特別企画会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C)

大規模地震でも医療を持続するために

座長 北川 喜己 (名古屋掖済会病院 病院長)

KN2 大規模地震でも医療を持続するために

名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長 福和 伸夫

■基調講演 3

2 日目 (3 月 7 日) 9:10 ～ 10:10

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

病気をめぐる差別・偏見

「人権問題」としてのハンセン病

座長 三村 誠二 (国立病院機構本部DMAT事務局)

KN3 病気をめぐる差別・偏見
「人権問題」としてのハンセン病

公益財団法人笹川保健財団 喜多 悦子

■基調講演 4

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 9:00

第 2 会場（コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B）

伊勢湾台風復興の地から～今につながる「海からの被災地支援」、そして未来へ

座長 北川 喜己（名古屋掖済会病院）

KN4 伊勢湾台風復興の地から～今につながる「海からの被災地支援」、そして未来へ

第四管区海上保安本部長 澤井 幸保

■特別講演 1

1 日目（3 月 6 日）17:00 ～ 18:00

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

災害時等における船舶を活用した医療提供について－今後の展望－

座長 福和 伸夫（名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長）

SL1 災害時等における船舶を活用した医療提供について－今後の展望－

内閣官房 船舶活用医療推進室 企画官 田中 桜

■特別講演 2

1 日目（3 月 6 日）11:20 ～ 12:20

特別企画会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C）

リベリアから南スーダンまで「国境なき医師団、私の歩んできた道」

座長 中川 隆（常滑市民病院）

SL2 リベリアから南スーダンまで「国境なき医師団、私の歩んできた道」

国境なき医師団日本 監事／済生会松阪総合病院 救急科長 久留宮 隆

■特別講演 3

2 日目（3 月 7 日）9:10 ～ 10:10

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

災害から生まれ、災害に生きる海猿

座長 北川 喜己（名古屋掖済会病院）

SL3-1, 2 災害から生まれ、災害に生きる海猿

海猿の中で海上災害の教訓から結成され最前線で活躍する精鋭部隊、
それが海上保安庁特殊救難隊である。

第三管区海上保安本部交通部 稲葉 健人
第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 岡 大一郎

■特別講演 4

2 日目（3 月 7 日）10:30 ～ 12:00

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

救急災害医療の源点 - 辺見先生を偲ぶ -

座長 本間 正人（鳥取大学医学部 器官制御外科学講座 救急・災害医学分野）

SL4 救急災害医療の源点 - 辺見先生を偲ぶ -

埼玉医科大学医学部／埼玉医科大学国際医療センター救急医学科 救命救急センター 加地 正人

■教育講演 1

2 日目 (3 月 7 日) 15:30 ~ 16:30

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

災害医療における医療安全：人間性と複雑性を考慮した新たな視点

座長 佐々木宏之 (東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)

EL1 災害医療における医療安全：人間性と複雑性を考慮した新たな視点

愛知医科大学病院 医療安全管理室 奥村 将年

■教育講演 2

2 日目 (3 月 7 日) 11:10 ~ 12:10

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション

座長 阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)

EL2 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション

株式会社グローバルヘルスコミュニケーションズ/
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 蝦名 玲子

■教育講演 3

2 日目 (3 月 7 日) 11:00 ~ 12:00

第 10 会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B)

医療をめぐる生命倫理と法—臓器移植, インフォームド・コンセント, ACP

座長 高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科)

EL3 医療をめぐる生命倫理と法—臓器移植, インフォームド・コンセント, ACP

神戸大学 名誉教授 丸山 英二

企画：倫理委員会

■教育講演 4

3 日目 (3 月 8 日) 8:30 ~ 9:30

特別企画会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C)

災害時診療のための内科診断リファレンス

座長 後藤 縁 (名古屋掖済会病院 救急科)

EL4 災害時診療のための内科診断リファレンス

洛和会丸太町病院 上田 剛士

■教育講演 5

3 日目 (3 月 8 日) 10:50 ~ 11:50

特別企画会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C)

わが国の新興再興感染症対応において国立健康危機管理研究機構に期待される役割

座長 阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)

EL5 わが国の新興再興感染症対応において国立健康危機管理研究機構に期待される役割

国立感染症研究所 脇田 隆字

■防災学術連携体・医学会連合等対応委員会企画

2 日目（3 月 7 日）16:40 ～ 18:10

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

伊勢湾台風アゲイン ～名古屋は大丈夫か～

座長 米田 雅子（東京工業大学 環境・社会理工学院 特任教授／防災学術連携体代表幹事）
大友 康裕（国立病院機構 災害医療センター 病院長／防災学術連携体幹事）

防災 1 スーパー伊勢湾台風に備える

名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻 教授／公益社団法人 土木学会 戸田 祐嗣

防災 2 災害医療の立場から

愛知医科大学災害医療研究センター 教授／一般社団法人日本災害医学会 津田 雅庸

防災 3 伊勢湾台風：過去を再現し未来を予測する

名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授／公益社団法人日本気象学会 坪木 和久

企画：防災学術連携体・医学会連合等対応委員会

■特別企画 能登半島地震を振り返る 1

1 日目（3 月 6 日）14:20 ～ 16:20

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

輪島市における対応

座長 島田 二郎（福島医科大学）
小塚 浩（DMAT事務局）

SSN1-1 能登半島地震における輪島市保健医療福祉調整本部の運営

総合南東北病院 外科 藁谷 暢

SSN1-2 2024 年能登半島地震における市立輪島病院の対応

市立輪島病院 品川 誠

SSN1-3 能登半島地震を振り返る ～2 度の市立輪島病院病院支援から学んだもの～

岐阜大学医学部付属病院 吉田 隆浩

SSN1-4 能登半島地震における輪島市のプライマリ・ケアクリニックの活動

ごちゃまるクリニック 小浦 友行

SSN1-5 輪島市における社会福祉施設と福祉避難所での対応

DMAT 事務局／共立女子大学大学院 修士課程 療養生活支援看護学領域 小児看護学分野 上吉原良実

■特別企画 能登半島地震を振り返る 2

1 日目（3 月 6 日）16:30 ～ 18:00

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

関係団体の活動

座長 近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
森川 精二（金沢市立病院）

SSN2-1 DHEAT の活動（仮）

北海道 保健福祉部 人見 嘉哲

- SSN2-2 能登半島地震での日本赤十字社の救護活動について
岡山赤十字病院 齋藤 博則
- SSN2-3 令和 6 年能登半島地震における JMAT（日本医師会災害医療チーム：以下 JMAT と略）
による災害医療支援活動
石川県医師会 安田 健二
- SSN2-4 令和 6 年能登半島地震における石川県看護協会の取り組み
石川県看護協会 小藤 幹恵
- SSN2-5 すべての被災者へ医薬品を届けるために
医療法人白井会 田野病院 薬剤部 豊山 美琴
- SSN2-6 災害時における産業保健支援（DOHAT の活動）
産業医科大学 榎田奈保子

■特別企画 能登半島地震を振り返る 3

1 日目（3 月 6 日）11:00 ～ 12:30

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

スペシャルレクチャー

座長 近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
三村 誠二（国立病院機構本部DMAT事務局）
小早川義貴（国立病院機構本部DMAT事務局）

- SSN3-1 令和 6 年能登半島地震 珠洲市の現状と課題
珠洲市健康増進センター 三上 豊子
- SSN3-2 能登中部医療圏での災害対応
公立能登総合病院 圓角 文英
- SSN3-3 被災者受入側となる県内医療機関の調整・情報共有
独立行政法人国立病院機構金沢医療センター 阪上 学

■特別企画 能登半島地震を振り返る 4

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 15:50

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

緊急対応

座長 明星 康裕（石川県立中央病院 救急科）
萩原 康友（名古屋掖済会病院 救急科）

- SSN4-1 能登半島地震緊急期における多機関連携と NGO の役割
ピースウィンズ・ジャパン 稲葉 基高
- SSN4-2 令和 6 年能登半島地震における透析患者避難：石川県保健医療福祉調整本部の活動
公立松任石川中央病院 安間 圭一
- SSN4-3 能登半島地震を振り返る～緊急対応～ 在宅酸素患者対応
愛知医科大学 災害医療研究センター 津田 雅庸
- SSN4-4 令和 6 年能登半島地震におけるドクターヘリ本部・調整部の活動
石川県立中央病院救命救急センター 南 啓介

■特別企画 能登半島地震を振り返る 5

2 日目 (3 月 7 日) 16:30 ～ 18:30

第 1 会場 (コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A)

病院・施設の評価と最低限の環境整備、避難搬送

座長 阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)
若井 聡智 (DMAT事務局)

SSN5-1 令和 6 年能登半島地震における社会福祉施設の評価と課題

愛知医科大学 高橋 礼子

SSN5-2 令和 6 年能登半島地震における病院・施設からの搬送調整

前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科／
厚生労働科学特別研究事業 令和 6 年能登半島地震における医療チームの対応の検証に基づく災害時医療提供体制の向上に資する研究 研究班 中村 光伸

SSN5-3 臨時の高齢者施設：一時 (いつとき) 待機ステーション

甲賀保健所所長 兼 滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課主席参事 松原 峰生

SSN5-4 令和 6 年能登半島地震における被災者の受け入れに関する当院の対応 ～集中・分散拠点として～

石川県立中央病院 太田 圭亮

SSN5-5 能登半島地震被災者の“生活”を守るために ～石川県介護支援専門員協会のマッチングとアセスメント業務、実態把握事業について～

あおいとりケアサービス 関本 崇詞

SSN5-6 能登半島地震における活動報告～避難搬送の一翼を担って～

(一社) 全民救患者搬送協会 秋間 七枝

■特別企画 能登半島地震を振り返る 6

3 日目 (3 月 8 日) 13:10 ～ 14:40

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

持続可能な保健医療福祉体制と復興

座長 小早川義貴 (国立病院機構本部DMAT事務局)
上杉 如子 (国民健康保険 小松市民病院 HCU)

SSN6-1 石川県健康福祉部長寿社会課の対応

石川県健康福祉部長寿社会課 窪田 譲

SSN6-2 石川県保健医療福祉調整本部が考えていた事

公立松任石川中央病院 村上 健一

SSN6-3 被災地域の医療機関を支えるための看護師支援調整について

国立病院機構本部 DMAT 事務局 千島佳也子

SSN6-4 社会福祉施設への支援

国立病院機構本部 DMAT 事務局 是枝 大輔

■特別企画 能登半島地震を振り返る 7

3 日目（3 月 8 日）14:50 ～ 16:20

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

総括：災害の本質は何だったのか

座長 菊地 修一（石川県 健康福祉部）
近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
森川 精二（金沢市立病院）

SSN7-1 能登半島地震の本質

DMAT 事務局 近藤 久禎

SSN7-2 能登半島地震における DMAT 調整本部長の活動を振り返る

金沢市立病院 森川 精二

■特別企画 1

1 日目（3 月 6 日）11:00 ～ 12:30

第 2 会場（コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B）

2025 大阪・関西万博に向けて

座長 若井 聡智（DMAT事務局）
酒井 智彦（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）

SS1-1 2025 年大阪・関西万博に向けて

愛知医科大学 名誉教授 野口 宏

SS1-2 2025 大阪・関西万博における多数傷病者対応計画について

大阪急性期・総合医療センター 救急診療科 藤見 聡

SS1-3 G20 大阪サミット、G7 広島サミットにおける医療提供体制の構築

大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター 酒井 智彦

SS1-4 2025 大阪・関西万博医療対応をより強靱にするために一過去の人為的な多数傷病者事案を参考にした想定にどう対応するか

国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター 大西 光雄

■特別企画 2

1 日目（3 月 6 日）9:10 ～ 10:10

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

WADEM2025

座長 大友 康裕（国立病院機構災害医療センター）
小井土雄一（厚生労働省DMAT事務局）

SS2-1 世界災害医学会と日本の関わりの歴史

NPO 法人 災害医療人道支援会 (HuMA) 甲斐 達朗

SS2-2 WADEM 東京に向けた JADM 会員への強い期待

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学／国立病院機構 DMAT 事務局 久保 達彦

SS2-3 WADEM2025 プログラムのハイライト

松戸市立総合医療センター 救命救急センター 八木 雅幸

SS2-4 WADEM Tokyo2025: VUCA における災害・救急医療の道しるべ

岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域看護科学分野 原田奈穂子

企画：WADEM2025 組織委員会

■特別企画 3

2 日目（3 月 7 日）10:30 ～ 12:00

第 2 会場（コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B）

災害・疾患と人権～フクシマ・コロナを振り返る～

座長 島田 二郎（福島医科大学）
三村 誠二（国立病院機構本部DMAT事務局）

SS3-1 恐怖、混乱、差別のサイクルが回り続ける災害について

国立病院機構本部 DMAT 事務局 近藤 久禎

SS3-2 大は小を兼ねない

DMAT 事務局 福島復興支援室 小早川義貴

SS3-3 東日本大震災からの復興についての一考察

原田時計店（浪江町） 原田 雄一

SS3-4 在宅医療の現場から新型コロナウイルス感染症流行について振り返る

社会医療法人関東会江別訪問診療所 日下 勝博

SS3-5 コロナウイルス感染症 (COVID-19)（感染症）の流行と人権

川崎市健康安全研究所 岡部 信彦

■特別企画 4

2 日目（3 月 7 日）8:50 ～ 10:20

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

健康危機管理対応人材の育成

座 長 磯 博康（国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター）
近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
趣旨説明 近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）

SS4-1 医学部における健康危機管理教育の現状

愛知医科大学 高橋 礼子

SS4-2 卒前・卒後教育体制の 1 例（仮）

京都大学 ヘルスセキュリティセンター 今中 雄一

SS4-3 浜松医科大学における健康危機管理教育

浜松医科大学健康社会医学講座 尾島 俊之

SS4-4 「医学部における健康危機管理教育体制の構築に向けたワークショップ」実施報告

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 富尾 淳

SS4-5 健康危機管理対応人材の資質とキャリアパスの確立について

国立機構本部 DMAT 事務局 近藤 久禎

企画：社会医学系専門医検討委員会

■特別企画 5

2 日目 (3 月 7 日) 9:00 ～ 10:30

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

MCLS コースの研修体系について

座長 大友 康裕 (国立病院機構災害医療センター)
阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)

SS5-1 MCLS コース～過去・現在・未来～

鳥取大学医学部救急・災害医学分野／日本災害医学会 MCLS 運営委員会 委員長 本間 正人

SS5-2 MCLS-CBRNE コースに関して

千葉県総合救急災害医療センター 嶋村 文彦

SS5-3 大量殺傷型テロ対応関係コースの現状と課題

国立病院機構渋川医療センター 高橋 栄治

SS5-4 MCLS 大量殺傷型テロ対応病院コースの紹介

MCLS 運営委員会 大量殺傷型テロ関連コースワーキンググループ／りんくう総合医療センター 成田麻衣子

SS5-5 MCLS 研修システムの現状と課題

国士舘大学大学院救急システム研究科 張替喜世一

企画：MCLS 運営委員会

■特別企画 6

3 日目 (3 月 8 日) 15:10 ～ 16:20

第 1 会場 (コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A)

「VS 南海トラフ地震」

～つなぐ議論のバトン 3rd メッセージ 南海トラフ地震における被災地での活動について

座長 高橋 昌 (新潟大学)

SS6-1 南海トラフ地震における被災地での活動について
～東日本大震災の被災地から～

岩手医科大学 救急・災害医学講座 眞瀬 智彦

SS6-2 「VS 南海トラフ地震」

～つなぐ議論のバトン 3rd メッセージ 南海トラフ地震における被災地での活動について

京都第一赤十字病院 高階謙一郎

SS6-3 災害時の医療活動は変革の時代

名古屋掖済会病院 北川 喜己

■特別企画 7

3 日目 (3 月 8 日) 9:10 ～ 10:50

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

愛知のイベント・事件現場での医療を振り返る

座長 加納 秀記 (愛知医科大学病院 救急診療部)

SS7-1 中華航空機墜落事故

総合大雄会病院 井上 保介

SS7-2 セントレアでの災害対策 (仮)

愛知医科大学病院 救急診療部 加納 秀記

SS7-3 長久手立てこもり事件での医療の対応

藤枝市立総合病院 救命救急センター 三木 靖雄

SS7-4 暑熱のマスギャザリング・イベントに対する 19 年間の医療支援
～につぼんど真ん中祭り～

愛知淑徳大学／一般財団法人 2005 年日本国際博覧会記念災害救急医療研究財団 丹羽 一晃

SS7-5 愛知のイベント・事件現場での医療を振り返る IMAT 事案紹介

愛知医科大学 災害医療研究センター／愛知医科大学病院 高度救命救急センター 津田 雅庸

■特別企画 8

3 日目 (3 月 8 日) 13:10 ～ 14:10

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

子育て世代も災害対応！～ゼロ？から始める男女共同参画～

座長 若井 聡智 (国立病院機構本部DMAT事務局)

石井美恵子 (国際医療福祉大学大学院 災害医療分野)

SS8-1 ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) 推進委員会設立にあたって

愛知医科大学 高橋 礼子

SS8-2 日本災害医学会における会員・役員の実態調査について

岩手医科大学 金子 拓

SS8-3 災害医療認定薬剤師ならびに認定災害医療ロジスティクス専門家の実態調査について

千葉県総合救急災害医療センター 伊崎田和歌

SS8-4 キャリアパス提示：自分の満足への模索の軌跡 (まだ模索中！)

東京大学医学部附属病院 湯澤 紘子

企画：D&I 推進委員会

■ DMAT20 周年シンポジウム 1

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ～ 10:40

第 1 会場 (コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A)

DMAT 活動の変遷～本部活動～

座長 近藤 久禎 (国立病院機構本部DMAT事務局)
島田 二郎 (福島医科大学)

SSY1-1 新潟県中越沖地震における DMAT 活動拠点本部活動

新潟市民病院 熊谷 謙

SSY1-2 DMAT 活動の変遷
～東日本大震災における本部活動～

岩手医科大学救急・災害医学講座 眞瀬 智彦

SSY1-3 2016 年 熊本地震 ～阿蘇地区における保健医療本部活動・ADRO の概略～

労働者健康安全機構 横浜労災病院 救命救急センター 中森 知毅

SSY1-4 令和元年台風 15 号被害における本部活動

国立病院機構本部 DMAT 事務局 鈴木 教久

SSY1-5 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大下での沖縄県感染症対策本部 (本部)
支援活動

国立病院機構本部 DMAT 事務局 若井 聡智

■ DMAT20 周年シンポジウム 2

1 日目 (3 月 6 日) 10:50 ～ 12:20

第 1 会場 (コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A)

DMAT 活動の変遷～通信確保と情報伝達・共有～

座長 大友 仁 (公益社団法人青年海外協力協会 訓練支援チーム)
鈴木 教久 (DMAT事務局)

SSY2-1 衛星電話今昔 特性と経験した問題

茨城県立中央病院 青木 正志

SSY2-2 DMAT と高速衛星通信の歩み

広島大学 医系科学研究科 公衆衛生学 田治 明宏

SSY2-3 低軌道衛星通信の活用について

DMAT 事務局 田坂 勇太

SSY2-4 災害医療活動における情報ツールの変遷と日赤無線について

日本赤十字看護大学 附属災害救護研究所 高桑 大介

SSY2-5 DMAT 活動における専用無線周波数の必要性和課題

元 DMAT 事務局 小谷 聡司

企画：災害医療ロジスティクス検討委員会

■ DMAT20 周年シンポジウム 3

1 日目 (3 月 6 日) 14:20 ~ 15:50

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

DMAT 活動の変遷～病院・施設の機能評価～

座長 阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)
松田 宏樹 (国立病院機構本部DMAT事務局)

SSY3-1 病院機能評価群 Ver4 による病院の被災状況の評価と対応の標準化

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 阿南 英明

SSY3-2 病院評価と活動方針決定には予測が必要である

秋田大学医学部附属病院 高度救命救急センター 奥山 学

SSY3-3 「病院行動評価群」におけるⅠ (避難) とⅡ (機能維持) の見極めを迅速的確に行うことが重要

社会医療法人陽明会 小波瀬病院／一般財団法人救急振興財団 救急救命九州研修所 田口 健蔵

SSY3-4 病院評価 水害被災病院への支援

福岡県済生会二日市病院 宮川 貴圭

SSY3-5 市立輪島病院における病院機能評価

京都橘大学健康科学部救急救命学科／滋賀医科大学救急集中治療医学講座 益満 茜

■ DMAT20 周年シンポジウム 4

1 日目 (3 月 6 日) 16:30 ~ 18:00

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

DMAT 活動の変遷～保健医療福祉の情報ツール～

座長 中山 伸一 (兵庫県災害医療センター／順心神戸病院 救急部)
阿南 英明 (地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部)

SSY4-1 広域災害救急医療情報システム EMIS の変遷

兵庫県災害医療センター / 神戸赤十字病院 中田 正明

SSY4-2 DMAT 活動の変遷～保健医療福祉の情報ツール～

広島大学 大学院医系科学研究科 公衆衛生学 久保 達彦

SSY4-3 新 EMIS という災害医療の新たな政府プラットフォームの方向性について

神奈川県 政策局顧問 兼 医療福祉情報政策特別顧問 (元医療危機対策統括官)／厚生労働省 医政局参与 畑中 洋亮

SSY4-4 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大下での情報ツール

DMAT 事務局 若井 聡智

SSY4-5 社会福祉施設の被災情報共有ツール

国立病院機構本部 DMAT 事務局 是枝 大輔

企画：災害医療ロジスティクス検討委員会

■ DMAT20 周年シンポジウム 5

1 日目 (3 月 6 日) 14:20 ～ 15:50

第 8 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 1)

DMAT 活動の変遷～搬送調整～

座長 藤原 弘之 (岩手医科大学 医学部救急・災害医学講座)
中村 光伸 (前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科)

SSY5-1 DMAT と一般社団法人 全民救患者搬送協会 災害時患者搬送支援の取り組み

一般社団法人 全民救患者搬送協会 中村 敏和

SSY5-2 DMAT 活動の変遷～搬送調整～ 医療側からの搬送調整の在り方

国立病院機構本部 DMAT 事務局 三村 誠二

SSY5-3 DMAT 活動の変遷～搬送調整～ 日本搬送学会の立場から

愛知医科大学 災害医療研究センター 津田 雅庸

SSY5-4 我が国の大規模災害におけるドクターヘリ活動と空路医療搬送の変遷

日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター／日本医科大学 救急医学教室 本村 友一

SSY5-5 能登半島地震における消防組織の医療搬送調整へのかかわり

金沢市消防局 中央消防署 泉野出張所 小西 正則

SSY5-6 災害時における自衛隊の医療搬送支援と連携の課題

防衛省統合幕僚監部参事官付企画官 齋藤 健一

SSY5-7 災害と日本搬送学会

愛知医科大学 名誉教授 野口 宏

■ DMAT20 周年シンポジウム 6

2 日目 (3 月 7 日) 8:30 ～ 10:00

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

DMAT 活動の変遷～病院・施設避難～

座長 若井 聡智 (DMAT事務局)
伊藤 宏保 (新潟大学 未来社会共創ラボ)

SSY6-1 熊本地震における病院避難と今後の対策

鹿児島市立病院 吉原 秀明

SSY6-2 能登半島地震から病院・施設避難をかんがえる

DMAT 事務局 松田 宏樹

SSY6-3 令和 6 年能登半島地震で起きた町立富来病院での病院避難における DMAT 活動報告

新潟大学 未来社会共創ラボ 伊藤 宏保

SSY6-4 災害時高齢被災者の広域搬送の問題点 ー能登半島地震の経験からー

富山県立中央病院救命救急センター 若杉 雅浩

■ DMAT20 周年シンポジウム 7

2 日目（3 月 7 日）10:20 ～ 12:00

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

DMAT 活動の変遷～病院・施設機能維持～

座長 高桑 大介（日本赤十字看護大学 附属災害救護研究所）
中田 正明（兵庫県災害医療センター 放射線課）

SSY7-1 大規模災害時におけるライフライン支援の現状

国立病院機構本部 DMAT 事務局 鈴木 教久

SSY7-2 東日本大震災における被災病院のライフライン確保

岩手県立遠野病院 専門幹看護師 坪井 忠和

SSY7-3 平成 30 年 7 月豪雨災害における水の確保

社会医療法人里仁会 興生総合病院 小倉 康弘

SSY7-4 令和 2 年熊本豪雨災害、令和 5 年 7 月福岡豪雨災害における支援

社会医療法人財団池友会 新小文字病院 薬剤科 辻本 朗

SSY7-5 病院ができるライフラインを守るための災害対策

沖縄県立中部病院 宮平 亮

企画：災害医療ロジスティクス検討委員会

■ DMAT20 周年シンポジウム 8

2 日目（3 月 7 日）16:00 ～ 17:30

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

DMAT 活動の変遷～亜急性期の体制確立～

座長 小早川義貴（国立病院機構本部DMAT事務局）
家永慎一郎（川崎医科大学総合医療センター 救急科）

SSY8-1 亜急性期における地域保健医療福祉調整本部設置時の課題

労働者健康安全機構 横浜労災病院 救命救急センター 中森 知毅

SSY8-2 DMAT 活動の変遷～亜急性期の体制確立～

総合南東北病院 藁谷 暢

SSY8-3 能登中部保健医療福祉調整本部活動について

公立能登総合病院 圓角 文英

SSY8-4 亜急性期の体制確立には被災地の受援体制構築が不可欠 ～熱海土砂災害で急性期設置した保健医療福祉調整本部はなぜ地元に残らなかったのか～

まつおか内科循環器クリニック／島田市立総合医療センター 松岡 良太

■ DMAT20 周年シンポジウム 9

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 10:00

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

DMAT 活動の変遷～病院・施設・避難所の環境整備～

座長 小早川義貴（国立病院機構本部DMAT事務局）
中田 正明（兵庫県災害医療センター 放射線課）

SSY9-1 DMAT 活動の変遷～避難所の環境整備～

石巻赤十字病院／避難所・避難生活学会 植田 信策

SSY9-2 災害時における診療所での環境整備／
令和 2 年 7 月豪雨における DMAT ロジスティックチーム活動

兵庫県災害医療センター 島津 和久

SSY9-3 施設での環境整備（施設における新型コロナウイルス感染症対応から）

厚生労働省 DMAT 事務局 池田 初男

SSY9-4 病院浸水被災後の環境整備

きぬ医師会病院 柴田 智行

企画：災害医療ロジスティクス検討委員会

■ DMAT20 周年シンポジウム 10

3 日目（3 月 8 日）10:20 ～ 11:50

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

DMAT 活動の変遷～地域の復旧・復興～

座長 小早川義貴（国立病院機構本部DMAT事務局）
中山 伸一（兵庫県災害医療センター／順心神戸病院 救急部）

SSY10-1 福島第一原子力発電所事故被災地における医療課題

福島県ふたば医療センター 谷川 攻一

SSY10-2 DMAT 活動の変遷～地域の復旧・復興
～東日本大震災からの復旧・復興～

岩手医科大学 救急・災害医学講座 眞瀬 智彦

SSY10-3 平成 28 年熊本地震から 8 年

医療法人社団順幸会 阿蘇立野病院 上村 晋一

SSY10-4 未来志向に立つ令和 6 年度能登半島地震からの復興

石川県立中央病院 明星 康裕

SSY10-5 令和 6 年能登半島地震での施設入所者一時待機ステーションの立ち上げ経験と課題

京都府立医科大学附属病院看護部 鴨島 尚美

■シンポジウム 1

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ~ 10:10

第 3 会場 (交流センター 3 階 会議ホール)

世界の DMAT

座長 大場 次郎 (DMAT事務局)
豊國 義樹 (国立病院機構本部DMAT事務局)

SY1-1 The Role of Taiwan's Disaster Medical Assistance Teams (DMAT) in Disaster Response
National Cheng Kung University Hospital Chia-Lung, Kao, M.D

SY1-2 The Role and Operations of Korean DMAT in Disaster Medical Response
National Emergency Medical Center, National Medical Center Kim Jung-Eon, M.D., MPH

SY1-3 AUSMAT: A Leading Multidisciplinary Emergency Medical Response Team
National Critical Care and Trauma Response Centre Kathleen McDermott

SY1-4 The Role of DMAT in the National Disaster Medical System (NDMS) and International Collaboration
Administration for Strategic Preparedness & Response Eric Vincent

SY1-5 日本 DMAT の国際連携活動の歩みと今後の課題
国立病院機構本部 DMAT 事務局 豊國 義樹

■シンポジウム 2

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ~ 10:40

第 4 会場 (交流センター 3 階 第 3 会議室)

災害医療における鉄道利用の可能性

座長 小早川義貴 (国立病院機構本部DMAT事務局)
島津 和久 (兵庫県災害医療センター 救急部)

SY2-1 医療と鉄道の関わり —その歴史、海外の現状、そして私たちの取り組み
早稲田大学 医療レギュラトリーサイエンス研究所 梅津 光生

SY2-2 災害医療における鉄道の利用 (被災地への医療隊投入)
兵庫県災害医療センター／Rail-DiMeC 研究会 島津 和久

SY2-3 災害時における鉄道を用いた多数患者搬送の実現可能性：
令和 5 年度近畿地方 DMAT ブロック訓練における実証的検討
兵庫県災害医療センター／鉄道の災害医療への活用研究会 (Rail-DiMeC 研究会) 甲斐聡一郎

SY2-4 技術面から見た災害医療への鉄道利用の特徴
早稲田大学 医療レギュラトリーサイエンス研究所／(一社) 日本鉄道車両機械技術協会 小峰 輝男

SY2-5 貨物鉄道輸送の特徴と大規模災害発生時の役割
日本貨物鉄道株式会社 石井 智

■シンポジウム 3

1 日目（3 月 6 日）10:50 ～ 12:20

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

災害支援ナースのこれまでとこれから

座長 石井美恵子（国際医療福祉大学大学院 災害医療分野）

SY3-1 災害支援ナースに関する日本看護協会の活動

公益社団法人 日本看護協会 松本 珠実

SY3-2 災害支援ナースの活動と愛知県看護協会の取り組み

公益社団法人 愛知県看護協会 坂之上ひとみ

SY3-3 三重県看護協会の取り組みについて

公益社団法人三重県看護協会 藤田 典子

SY3-4 災害支援ナース養成研修のこれまでとこれから

一都道府県看護協会養成研修における企画・指導者研修内容の活用事例報告一

国際医療福祉大学大学院 災害医療分野／国際医療福祉大学大学院 災害保健医療研究センター 内海 清乃

SY3-5 災害支援ナースの活動を通して感じたこと

大阪医科薬科大学病院 大塚まり恵

■シンポジウム 4

1 日目（3 月 6 日）16:10 ～ 17:40

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

災害時における医療コンテナの活用について - 能登半島地震における教訓と今後について -

座長 中田 敬司（神戸学院大学 社会防災学科）

山下 和範（長崎大学病院 災害医療支援室）

SY4-1 災害時における医療コンテナ設置・輸送に係る課題と今後について

一般社団法人 医療コンテナ推進協議会 徳丸 周志

SY4-2 呼吸器感染症流行期の救護所における医療コンテナの活用

- 能登半島地震における教訓と今後について -

淀川キリスト教病院救急科・集中治療科／災害人道医療支援会（HuMA） 夏川 知輝

SY4-3 災害時医療コンテナの避難所救護所としての活用：2024 年能登半島地震の事例から

ピース・ウインズジャパン 稲葉 基高

SY4-4 医療搬送拠点・SCU における医療コンテナの活用と課題

福岡和白病院 白馬 雄士

SY4-5 能登半島地震における医療コンテナ運用に関する課題

国立病院機構本部 DMAT 事務局 三村 誠二

■シンポジウム 5

1 日目（3 月 6 日）10:50 ～ 12:20

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

富士山噴火対応

座長 小井土雄一（国立病院機構本部DMAT事務局）
井上 潤一（日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科）

- SY5-1 富士山噴火に備えた最近の取り組み
山梨県富士山科学研究所 富士山火山防災研究センター 石峯 康浩
- SY5-2 富士山噴火を想定した DMAT ブロック訓練から見えた課題とその解決策
山梨県立中央病院 DMAT 岩瀬 史明
- SY5-3 富士山噴火における当院の体制の現状
～できたこと、できないこと～
富士吉田市立病院 整形外科 近藤 充徳
- SY5-4 富士山噴火に伴う降灰被害における医療機関の影響について
神奈川県健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課 村田 沢人
- SY5-5 桜島大規模噴火時の病院避難計画に与える土石流発生リスク
鹿児島市立病院 救命救急センター 吉原 秀明

■シンポジウム 6

1 日目（3 月 6 日）14:20 ～ 15:50

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

高齢者施設と熱中症

座長 近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
村上 健一（公立松任石川中央病院 脳神経外科）

- SY6-1 災害現場における熱中症の予防と治療
日本医科大学大学院 医学研究科 救急医学分野 横堀 将司
- SY6-2 熱中症の最新状況と政府の取り組み
環境省 大臣官房環境保健部企画課 熱中症対策室 永田 翔
- SY6-3 千葉県における令和元年台風 15 号で発生した高齢者施設入所者の熱中症被害について
千葉県総合救急災害医療センター リハビリテーション科 / 災害医療局 伊崎田和歌
- SY6-4 災害時における高齢者施設での熱中症対策とその支援
国立病院機構本部 DMAT 事務局 是枝 大輔

■シンポジウム 7

1 日目 (3 月 6 日) 14:20 ~ 15:50

第 10 会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B)

御岳山噴火から 10 年

座長 新井 克哉 (一般社団法人ALiS)
高山 浩史 (信州大学医学部附属病院 高度救命救急センター)
田中 啓司 (JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター 救命救急センター／救急科)

SY7-1 御嶽山火山噴火における DMAT 活動

独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター 救急外来 高野 博子

SY7-2 御嶽山噴火から学ぶ～受援活動の課題と展望～

長野県立病院機構 県立木曽病院 篠原 円

SY7-3 後方の災害拠点病院とドクターヘリの活動

信州大学医学部附属病院 西 7 階病棟 江津 篤

SY7-4 御嶽山噴火災害における TTT

厚生労働省 医政局地域医療計画課 近藤 祐史

■シンポジウム 8

2 日目 (3 月 7 日) 16:30 ~ 18:30

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

災害対応における大学の役割～臨床・教育・研究～

座長 高橋 昌 (新潟大学)
岩田 充永 (藤田医科大学 救急医学・総合内科学)
オープニングリマークス 高橋 昌 (新潟大学)

SY8-1 南海トラフ地震における宮崎大学医学部附属病院の役割

—大学での患者受入、県内各本部への人員派遣、県内各地の救急診療等—

宮崎大学医学部病態解析医学講座 救急・災害医学分野／宮崎大学医学部附属病院救命救急センター 落合 秀信

SY8-2 災害時における大学病院間連携の経験

藤田医科大学 岩田 充永

SY8-3 救急災害医学講座と健康社会医学講座が連携して行う健康危機管理教育

浜松医科大学 救急災害医学講座 高橋 善明

SY8-4 愛知医科大学における調査研究事業と社会実装

愛知医科大学災害医療研究センター 小澤 和弘

SY8-5 東日本大震災対応経験を踏まえた東北大学の災害医学研究体制

東北大学 石井 正

■シンポジウム 9

2 日目（3 月 7 日）10:10 ～ 12:10

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

災害時・災害後の支援者支援

座 長 小井土雄一（国立病院機構本部DMAT事務局）
高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学）
指定発言 高橋 晶（筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学）

SY9-1 災害派遣における自衛官のメンタルケアから観る支援者支援の留意点 （これまでの災害派遣の比較からの一視点）

防衛省 陸上自衛隊 守山駐屯地業務隊 衛生科 臨床心理士 / 公認心理師 岡本 大助

SY9-2 災害時の支援者支援

DMAT 事務局 若井 聡智

SY9-3 令和 6 年能登半島地震における医療救援者の救助活動の経験と心的外傷後ストレス 症状および心理的苦痛の関連

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神保健学分野 浅岡 紘季

SY9-4 災害・人道支援従事者のストレス対策 ～赤十字の国際支援活動経験から～

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 森光 玲雄

SY9- 指定発言・支援者支援のこれから 指定発言

筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学／茨城県立こころの医療センター／
筑波メディカルセンター病院 精神科 高橋 晶

企画：災害時の精神心理的対応に関する委員会

■シンポジウム 10

2 日目（3 月 7 日）16:10 ～ 17:10

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

国際緊急援助隊 2024 グローバル・チャレンジ レポート

座 長 井上 潤一（日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科）
中森 知毅（労働者健康安全機構 横浜労災病院 救命救急センター）
指定発言 飯村 学（国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊事務局）

SY10-1 EMT イニシアチブ：国際緊急援助隊医療チームへの新たな期待

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学／国立病院機構 DMAT 事務局 久保 達彦

SY10-2 2023 年 10 月以降のパレスチナ・ガザ地区人道危機における 緊急医療チーム調整本部情報管理部門に対する JICA の支援活動（中間報告）

兵庫県災害医療センター／国際緊急援助隊（JDR）医療チーム登録者 甲斐聡一郎

SY10-3 バヌアツ地震における EMTCC への MDS を用いた IM 支援の報告

聖隷三方原病院 原田 薫

SY10-4 国際緊急援助隊の新たなチャレンジ ～ I M 主流化による世界規模の対応能力向上にむけて

国際協力機構国際緊急援助隊事務局 池田 龍介

SY10-5 国際緊急援助隊医療チームにおける多様な職種の活躍

広島大学大学院／東京科学大学病院／国際緊急援助隊医療チーム 高村 ゆ希

■シンポジウム 11

2 日目（3 月 7 日）17:20 ～ 18:20

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

ARCH Project Updates

座長 甲斐 達朗（NPO法人 災害人道医療支援会（HuMA）／医療法人白卯会 白井病院）
夏川 知輝（淀川キリスト教病院救急科・集中治療科／災害人道医療支援会（HuMA））
小澤 真紀（独立行政法人国際協力機構 人間開発部保健第2グループ）

SY11-1 Regional Collaboration Drill under The ASEAN Regional Capacity on Disaster Health Management (ARCH) Project: Strengthening Disaster Health Management Capacities in ASEAN

Division of public health emergency management, Ministry of public Health Kriangsak Pintatham

SY11-2 AIDHM Dashboard as pioneering open access data to enhance disaster health management activities

ASEAN Institute for Disaster Health Management (AIDHM) ／
Departemen of Health Policy and Public Health, Hiroshima University Madelina Ariani, MPH

SY11-3 日本の受援体制整備と ASEAN との連携強化に向けた取り組み

国立病院機構本部 DMAT 事務局 豊國 義樹

SY11-4 ASEAN と JADM と学術交流の動向

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学 久保 達彦

SY11-5 災害医療に関するアセアン地域のさらなる能力向上に向けた ARCH Plus

国際協力機構 池田 修一

■シンポジウム 12

2 日目（3 月 7 日）9:10 ～ 11:10

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

医療現場と行政をつなぐ～話し合いの進め方のコツ～

座長 伊藤 友弥（あいち小児保健医療総合センター 小児救命救急センター）
寺澤 大祐（岐阜県総合医療センター 新生児内科）

SY12-1 医療計画はどのように決まっているか～都道府県の立場から～（仮）

北海道 保健福祉部 人見 嘉哲

SY12-2 厚生労働省の災害医療施策について

厚生労働省医政局地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 災害時医師等派遣調整専門官 赤星 昂己

SY12-3 未定

（調整中）

SY12-4 医療関係者と行政関係者の話し合いと連携のコツ

新潟県福祉保健部 和田 雅樹

SY12-5 名古屋市における災害対応について

名古屋市防災危機管理局危機対策課 担当課長（危機対策に係る総合調整） 麻生 竜伸

■シンポジウム 13

2 日目（3 月 7 日）9:00 ～ 10:40

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

クラッシュ症候群（Crush Syndrome : CS）に多職種で立ち向かう

座長 井上 潤一（日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科）
中山 伸一（兵庫県災害医療センター／順心神戸病院 救急部）

SY13-1 クラッシュ症候群特別委員会からの報告と今後の展望

独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局／日本災害学会クラッシュ症候群特別委員会 大場 次郎

SY13-2 迫り来る都市直下型地震に備える：
圧挫症候群（クラッシュ症候群）患者の救命に向けた医療体制の課題

町田市民病院 看護部 HCU 矢田 哲康

SY13-3 救助医療連携活動の実際と課題：令和 6 年能登半島地震における救助事例から

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 町田 友里

SY13-4 救助隊長として指揮した、熊本地震での倒壊建物からの救助事案
（クラッシュ症候群疑いの要救助者対応）

熊本市消防局総務課総務班 木庭慶一郎

SY13-5 熊本地震におけるクラッシュ症候群の実態

日本医科大学多摩永山病院 救命救急科／日本医科大学救急医学教室／国際緊急援助隊救助チーム医療班 阪本 太吾

SY13-6 国際緊急援助隊救助チーム医療班のクラッシュ症候群への取り組み

順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科／国際緊急援助隊救助チーム 医療班 高見 浩樹

SY13-7 倒壊構造物・閉じ込め現場を想定した救助・医療訓練／研修会の体系的展開に向けた
「Rescue Training Module™」の開発

株式会社 減災ソリューションズ（上武大学 客員教授） 加古 嘉信

企画：クラッシュ症候群特別委員会

■シンポジウム 14

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 15:20

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

SIP 防災セミナー／最新の SIP 研究開発の動向

司会 市川 学（芝浦工業大学）

SY14-1 DSG-SIM 災害シナリオジェネレータの開発と訓練への応用

芝浦工業大学 市川 学

SY14-2 災害最前線における実動機関の連携強化 ―SIP 第 3 期の取組紹介―

防災科学研究所 伊勢 正

■シンポジウム 15

3 日目（3 月 8 日）13:10 ～ 14:50

第 1 会場（コンベンションセンター 3 階 コンベンションホール A）

阪神淡路大震災から 30 年～首都直下型地震に向けて～

座長 小井土雄一（国立病院機構本部DMAT事務局）
中山 伸一（兵庫県災害医療センター／順心神戸病院 救急部）

SY15-1 首都直下地震を想定した緊急消防援助隊等の体制整備について

東京消防庁救急部 関 俊一

SY15-2 首都直下地震への東京都医師会の備え～被災地 JMAT の育成～

公益社団法人 東京都医師会 救急委員会 大桃 丈知

SY15-3 東京都の災害医療体制を特徴づける三層構造

東京都 保健医療局 医療政策部 上村 淳司

SY15-4 阪神淡路大震災を経験した兵庫県の災害への取り組みの評価と課題

西記念ポートアイランドリハビリテーション病院／兵庫県災害医療センター／神戸赤十字病院 小澤 修一

SY15-5 倒壊建物からの救助・医療活動の変遷と首都直下型地震への課題

日本医科大学多摩永山病院／日本医科大学救急医学教室／国際緊急援助隊救助チーム医療班 阪本 太吾

SY15-6 首都直下地震を想定した燃料補給の検証

独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局 鈴木 教久

■シンポジウム 16

3 日目（3 月 8 日）11:00 ～ 12:00

第 2 会場（コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B）

災害時のドクターヘリの運用について

座長 久城 正紀（福岡県済生会福岡総合病院 救命救急センター）
藤塚 健次（前橋赤十字病院 集中治療科救急科）

SY16-1 ドクターヘリ中部ブロックにおける令和 6 年能登半島地震での活動と平時からの取り組み

聖隷三方原病院高度救命救急センター 早川 達也

SY16-2 九州・沖縄における災害時ドクターヘリ運用計画

久留米大学病院高度救命救急センター 山下 典雄

SY16-3 能登半島地震でのドクターヘリ本部活動

石川県立中央病院 救命救急センター／金沢大学医薬保健学総合研究科 救急災害医学分野 蜂谷 聡明

SY16-4 災害時ドクヘリ運用方法は未だ周知されておらず 2024 年東北 D M A T 参集訓練から

福島県立医科大学附属病院 島田 二郎

SY16-5 広域災害時用ドクターヘリ出動準備の標準化に向けて ーアンケートに基づく出動マニュアルの策定ー

日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科／
令和 5 年度厚労科研 南海トラフ地震等大規模激甚災害時のドクターヘリ運用体制構築に向けた研究 井上 潤一

■シンポジウム 17

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 10:00

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

地下鉄サリン事件から 30 年～医療のテロ・CBERN 対策はどう変わったか～

座長 若井 聡智（DMAT事務局）

SY17-1 化学テロ対応の根本的転換と神経剤解毒剤自動注射器の導入

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 阿南 英明

SY17-2 過去の化学物質関連事案と最近のテロ攻撃を勘案した今後の化学イベントへの
備えと対策

国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 大西 光雄

SY17-3 被害者を最も受け入れた病院での経験をもとに

法務省 矯正局 奥村 徹

SY17-4 国土交通省・鉄道事業者における地下鉄サリン事件以降の CBRNE 対策と今後の課題

国土交通省鉄道局 総務課危機管理室 坪原 和洋

■シンポジウム 18

3 日目（3 月 8 日）10:20 ～ 11:50

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

災害医療から見た紛争地域支援

座長 若井 聡智（DMAT事務局）

矢嶋 祐一（DMAT事務局）

SY18-1 鹿児島県・熊本県国民保護共同訓練から得られた成果と課題

鹿児島市立病院 吉原 秀明

SY18-2 先島からの大規模住民避難：保健医療福祉分野からのマネジメントの課題

沖縄赤十字病院 佐々木秀章

SY18-3 ウクライナの現状（仮）

Ukrainian scientific and practical center of emergency medical aid and
disaster medicine of the Ministry of Health of Ukraine

SY18-4 紛争地域における医療支援の現状と展望：EMTCC の役割と課題

国立病院機構本部 DMAT 事務局 豊國 義樹

SY18-5 紛争地からの避難が慢性疾患に与える影響
～ウクライナ避難民の血圧データ解析から～

ピースウィンズ・ジャパン 稲葉 基高

■シンポジウム 19

3 日目（3 月 8 日）10:20 ～ 11:50

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

令和 6 年 8 月蒲郡市土砂災害救助に伴う対応～他機関との連携活動～

座 長 東 昇生（名古屋市消防局 救急部救急課）
アドバイザー 山内 崇裕（蒲郡市民病院 看護局）
服部 友紀（名古屋市立大学病院 救急科）

SY19-1 経験値を超えた災害における現場判断

蒲郡市消防本部 内田 喜城

SY19-2 土砂災害における蒲郡市災害対策本部の活動と課題について

蒲郡市危機管理課 山本 一彦

SY19-3 警察の初動活動

愛知県警察本部警備部警備第二課 間野 雄浩

SY19-4 陸上自衛隊が実施した活動について

陸上自衛隊豊川駐屯地第 6 施設群 岡 篤志

SY19-5 蒲郡市土砂災害の活動
他機関との連携活動について

名古屋市消防局 中消防署 警防地域第一課 中瀬 雅巳

■シンポジウム 20

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 10:30

第 7 会場（交流センター 4 階 第 7 会議室）

能登半島地震 こんなものが欲しかった

座長 中田 敬司（神戸学院大学）
島田 二郎（福島県立医科大学附属病院）

SY20-1 学からのニーズ 令和 6 年度大規模地震時医療活動訓練ニーズ調査アンケートより

福島赤十字病院 三浦 有樹

SY20-2 学からのニーズ 令和 6 年能登半島地震ニーズ調査アンケートより

福島赤十字病院 三浦 有樹

SY20-3 災害時におけるドローン活用
能登半島地震 こんなものが欲しかった

イームズロボティクス株式会社 曾谷 英司

SY20-4 能登半島地震対応で DMAT 専用の情報集約管理ツールがあるとよかった

東京科学大学病院 救命救急センター／東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 救急災害医学分野 岩崎 陽平

SY20-5 被災しながらも支援者側に居る人々への支援

公立能登総合病院 圓角 文英

SY20-6 能登半島地震での活動・生活を振り返って
～ あって良かったもの、無くて困ったもの～

国際医療福祉大学塩谷病院 長島 雄二

SY20-7 被災医療者の業務継続性をリアルタイムに表示するシステムの必要性
大規模災害対策情報システム PEACE には見えない重要な PIECE

恵寿総合病院 新井 隆成

SY20-8 気象条件から考えた、DMAT 活動を支える良質な睡眠を確保するための寝具の検討
～能登半島地震での活動の反省から～

名古屋市立大学病院救急科 坪内 希親

企画：産学連携新技術検討委員会

■シンポジウム 21

3 日目（3 月 8 日）10:05 ～ 11:20

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

健康危機管理の最新動向

座長 久保 達彦（広島大学 公衆衛生学）

和田 耕治（国立研究開発法人 国立国際医療研究センター）

SY21-1 健康危機管理における DMAT の役割

国立病院機構本部 DMAT 事務局 近藤 久禎

SY21-2 保健医療福祉調整本部の全国状況

浜松医科大学健康社会医学講座 尾島 俊之

SY21-3 感染症危機管理研究センターの取り組み

国立感染症研究所感染症危機管理研究センター 齋藤 智也

SY21-4 多様な健康危機に対応する本部運営の共通手順

広島大学 大学院医系科学研究科 公衆衛生学／国立病院機構 DMAT 事務局 久保 達彦

SY21-5 健康危機管理組織における安全・健康管理体制構築の重要性

産業医科大学 立石清一郎

SY21-6 健康危機管理における国立保健医療科学院の取り組み

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 冨尾 淳

■シンポジウム 22

3 日目（3 月 8 日）11:25 ～ 12:10

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

国立健康危機管理研究機構の設立と厚生労働省 DMAT の今後に向けて

座長 小井土雄一（国立病院機構本部 DMAT 事務局）

武井 貞治（国立研究開発法人 国立国際医療研究センター）

SY22-
指定発言

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部長 鷲見 学

SY22 ご挨拶

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 國土 典宏

SY22-1 国立健康危機管理研究機構の創設～感染症に不安のない社会を実現するために～

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 和田 耕治

SY22-2 国立健康危機管理研究機構の設立と厚生労働省 DMAT の今後に向けて

国立病院機構本部 DMAT 事務局 小井土雄一

■シンポジウム 23

3 日目 (3 月 8 日) 10:20 ~ 11:50

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

日本の避難所環境改善へのシナリオ

座 長 植田 信策 (石巻赤十字病院 災害医療研修センター)
石井美恵子 (国際医療福祉大学大学院 災害医療分野)
指定発言 栗原 望 (NHK アナウンス室)
(話題提供者)

SY23-1 防災庁の設置に向けて (仮題)

防災庁設置準備担当大臣 赤澤 亮正

SY23-2 防災庁と保健医療福祉

名古屋大学減災連携研究センター／名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学 山本 尚範

SY23-3 大規模分散備蓄、職能ボランティア及び災害専門省庁の必要性

新潟大学医歯学総合研究科先進血管病・塞栓症治療・予防講座 榛沢 和彦

SY23-4 避難所運営と日本赤十字社の活動

日本赤十字北海道看護大学 根本 昌宏

SY23-5 避難所運営にあたるボランティア団体の現状と避難所環境改善への課題

特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 栗田 暢之

SY23-指定発言 NHK アナウンサー現地取材「命と健康、人権を守る“イタリアの避難所”とは」

NHK アナウンス室 栗原 望

■シンポジウム 24

3 日目 (3 月 8 日) 10:50 ~ 11:50

第 10 会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B)

D24H シンポジウム

座長 市川 学
服部希世子

SY24-1 災害時の保健医療福祉に関する横断的な支援体制の構築について

厚生労働省 佐々木忠信

SY24-2 保健医療福祉調整本部における D24H の活用と今後への期待

北海道釧路保健所 石井 安彦

SY24-3 能登半島地震における D24H 使用経験

日本赤十字社 災害医療統括監／日本赤十字社医療センター 国内・国際医療救援部 丸山 嘉一

SY24-4 D24H 災害時保健医療福祉活動支援システム

芝浦工業大学 市川 学

■シンポジウム 25

3 日目（3 月 8 日）14:20 ～ 16:20

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

学会主導研究中間報告会

座長 越智 小枝（東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座）
大友 康裕（国立病院機構災害医療センター）

- SY25-1 寒冷環境が傷病者、救援者、医療資器材に与える影響
日本医科大学多摩永山病院／日本医科大学救急医学教室／国際緊急援助隊救助チーム医療班 阪本 太吾
- SY25-2 災害発生時の被災地における支援者被災者間のハラスメント事案に関する調査と研究（仮）
社会医療法人近森会近森病院 救急科 井原 則之
- SY25-3 水害の災害関連死と暑さ指数、そして死因全般へ与える影響調査へ
岡山大学病院災害対策室 飯田 淳義
- SY25-4 災害時における障害児避難支援モデルシステムの構築
琉球大学医学研究科救急医学講座 土屋 洋之
- SY25-5 災害時のエッセンシャルワーカーに対する育児支援の現状と必要な支援策に関する調査
名古屋市立大学大学院医学研究科救命救急医療学 今井 一徳
- SY25-6 日本の自然災害における支援者（救援者）のメンタルヘルスに関する
スコーピングレビュー
筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム 博士課程 伊藤結加里
- SY25-7 災害時トリアージにおける専門知の社会への架橋
東京大学／国立保健医療科学院 島田 裕平
- SY25-8 災害支援者の携行食の実態調査に関する研究
食べるのいろは 濱田 真里
- SY25-9 J-SPEED/MDS を活用した EMT 診療件数のリアルタイム予測数理モデルの構築と実装
広島大学 医学部 医学科／広島大学 医系科学研究科 公衆衛生学 吉田 教人
- SY25-10 危機災害派遣者は本質的には要配慮就労者なのではないか？
- 職場職員の危機災害派遣者受容度とその関連要因に関する実態調査
福島県立医科大学放射線災害医療学講座修士大学院生 齋藤 由美
- SY25-11 全国福祉避難所アンケート調査の実施について
鳥取大学医学部医学科脳神経小児科学 中村 裕子

企画：学会主導研究委員会

■パネルディスカッション 1

1 日目 (3 月 6 日) 16:30 ～ 18:00

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

災害のこれまでとこれからを考える～多機関連携～

座長 清住 哲郎 (防衛医科大学校)
小谷 聡司 (防衛省人事教育局)

PD1-1 自衛隊における災害支援の仕組みと多機関連携の展望

防衛省統合幕僚監部参事官付企画官 齋藤 健一

PD1-2 実機訓練等平時の連携を通じた自衛隊と医療の災害時における連携のあり方について

国立病院機構本部 DMAT 事務局 矢嶋 祐一

PD1-3 千葉県災害時小児周産期リエゾンの活動と DMAT との連携

順天堂大学医学部附属浦安病院 高度救命救急センター 石原 唯史

PD1-4 令和 6 年能登半島地震における地域周産期医療連携と人道支援の成功と限界

恵寿総合病院 新井 隆成

PD1-5 大規模集客施設における災害時の関係企業との連携・スタッフ教育の課題

一般財団法人 日本救護救急財団 山崎 明香

PD1-6 災害対応組織の scalable hierarchy に関わる人員の役割の代替性と可換性

帝京大学医学部救急医学講座 安心院康彦

PD1-7 日本プライマリ・ケア連合学会災害支援チーム Primary Care Assistance Team の
発足と多機関連携への取り組み

岡山大学 香田 将英

■パネルディスカッション 2

1 日目 (3 月 6 日) 11:00 ～ 12:30

第 4 会場 (交流センター 3 階 第 3 会議室)

行政が振り返る東日本大震災犠牲者・遺族対応ー未来へ伝承すべき医療との連携ー

座長 熊谷 章子 (岩手医科大学 法科学講座法歯学・災害口腔医学分野)

PD2-1 東日本大震災時の災害犠牲者・遺族対応

ー県職員の立場から未来へ伝承すべき他機関との連携ー

元 岩手県総務部 総合防災室 室長 小山 雄士

PD2-2 大規模災害時の犠牲者 / 遺族に対する警察の対応と課題

～東日本大震災時の宮城県警察本部長として～

NPO 法人災害時警友活動支援ネットワーク 竹内 直人

PD2-3 東日本大震災時の災害犠牲者・遺族対応

ー法病理医の立場から未来へ伝承すべき他機関との連携

前 岩手医科大学法科学講座法医学分野 教授 出羽 厚二

■パネルディスカッション 3

1 日目 (3 月 6 日) 14:20 ～ 16:00

第 4 会場 (交流センター 3 階 第 3 会議室)

災害のこれまでとこれからを考える～ NGO・NPO ～

座長 稲葉 基高 (ピースウィンズジャパン)
千島佳也子 (国立病院機構本部DMAT事務局)

- PD3-1 Taiwan NGO experience sharing on medical cooperation in humanitarian assistance
台湾衛生福利部桃園醫院 蕭 雅文
- PD3-2 令和 6 年能登半島地震における NGO・NPO による周産期医療への人道支援
恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 新井 隆成
- PD3-3 令和 6 年能登半島豪雨での TMAT 活動
～ NGO と DMAT が協力した福祉施設避難ミッション～
福岡徳洲会病院 救急科／NPO 法人 TMAT 鈴木 裕之
- PD3-4 NGO 登録隊員に向けた継続的人材育成と展望
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 林田 光代
- PD3-5 能登半島地震における災害医療 ACT 研究所の活動とその課題
NPO 法人 ACT 研究所／山形県立河北病院 森野 一真

■パネルディスカッション 4

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ～ 10:50

第 5 会場 (交流センター 3 階 第 4 会議室)

地域の要配慮者が災害時に必要とする支援と「食べる」

座長 中久木康一 (東北大学 大学院歯学研究科災害・環境歯学研究センター)
奥田 博子 (国立保健医療科学院 健康危機管理研究部)

- PD4-1 食べるためにできること！活かすこと！
認定栄養ケア・ステーション チーム KYE 栄養相談室 槁本 良子
- PD4-2 平時から地域で「食べる」を支える訪問歯科～能登半島地震の経験を生かして～
医療法人 ENGAGE あい訪問歯科クリニック 一瀬 浩隆
- PD4-3 被災者サポート活動～訪問を通じた食と生活支援～
かさまつケアオフィス合同会社／一般社団法人日本介護支援専門員協会／
一般社団法人日本ケアマネジメント学会 笠松 信幸
- PD4-4 「食べる」支援の連携とところのケアー精神保健心理社会的支援の視点から
桜美林大学リベラルアーツ学群／桜美林大学大学院国際学術研究科 池田 美樹

企画：災害時「食べる」連携委員会

■パネルディスカッション 5

1 日目（3 月 6 日）11:00 ～ 12:30

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

災害のこれまでとこれからを考える～小児周産期～

座長 上杉 泰隆（国立病院機構本部DMAT事務局）
高村 ゆ希（東京科学大学病院）

PD5-1 小児周産期医療領域における災害対応のこれまで

あいち小児保健医療総合センター 伊藤 友弥

PD5-2 能登半島地震における災害時小児周産期リエゾンの活動から見えた今後の課題

金沢大学附属病院 産科婦人科 鏡 京介

PD5-3 能登半島地震における被災地外からの支援活動から見えた今後の課題

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 救急科 今井 一徳

PD5-4 これまでの子どものこころの支援活動と災害時小児周産期リエゾンとの今後の連携のあり方

桜美林大学リベラルアーツ学群 池田 美樹

PD5-5 小児周産期領域における災害対応に関する施策と今後の方向性について

厚生労働省 榊原 康平

企画：小児周産期領域災害対策検討委員会

■パネルディスカッション 6

1 日目（3 月 6 日）14:20 ～ 15:50

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

災害のこれまでとこれからを考える～医師会・JMAT～

座長 細川 秀一（公益社団法人日本医師会）
高階謙一郎（京都第一赤十字病院 救命救急センター救急科）

PD6-1 日本医師会としての JMAT のこれから

日本医師会常任理事 細川 秀一

PD6-2 日赤として経験した JMAT 能登北部調整支部との協働

日本赤十字愛知医療センター名古屋第二病院 稲田 眞治

PD6-3 DMAT の立場から JMAT との連携

独立法人国立病院機構本部 DMAT 事務局 若井 聡智

PD6-4 JMAT としての多職種との連携

愛知県医師会 救急医療・災害医療担当理事／
日本臨床整形外科学会 副理事長／カワムラ整形外科 院長 河村 英徳

PD6-5 愛知県看護協会の立場から

公益社団法人 愛知県看護協会 結城 房子

■パネルディスカッション 7

1 日目 (3 月 6 日) 16:10 ～ 17:50

第 5 会場 (交流センター 3 階 第 4 会議室)

災害のこれまでとこれからを考える～災害薬事～

座長 渡邊 暁洋 (兵庫医科大学 危機管理医学講座)
山田 卓郎 (公益社団法人日本薬剤師会)

PD7-1 災害薬事対応と薬剤師のための災害対策マニュアル改訂

福岡大学薬学部 救急・災害医療薬学研究室 江川 孝

PD7-2 能登半島地震で実践した「巡回型」災害時対応医薬品供給車両と連携した機動的訪問診療

兵庫医科大学 救急・災害医学講座 山田 太平

PD7-3 地域災害薬事コーディネーターの役割と今後の展望 ～令和 6 年能登半島地震の経験より～

兵庫医科大学危機管理医学講座 渡邊 暁洋

PD7-4 都道府県庁における災害薬事コーディネーターの役割と展望 ～能登半島地震の経験から～

愛知医科大学 災害医療研究センター 柴田 隼人

企画：災害薬事委員会

■パネルディスカッション 8

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ～ 10:40

第 8 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 1)

南海トラフ地震等大規模激甚災害時のドクターヘリ運用体制構築－4 学会合同委員会からの報告

座長 高山 隼人 (国立病院機構長崎医療センター)
本村 友一 (日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター)

PD8-1 4 学会合同検討委員会から提案の厚労省指針改定案について

国立病院機構長崎医療センター 高山 隼人

PD8-2 南海トラフ地震等大規模激甚災害時のドクターヘリ運用体制構築 -4 学会合同委員会からの報告 - 日本航空医療学会の立場から

聖隷三方原病院高度救命救急センター 早川 達也

PD8-3 災害時におけるドクターヘリの運用のあり方に関する合同検討委員会 WG 報告 「派遣調整」

国立病院機構本部 DMAT 事務局 三村 誠二

PD8-4 4 学会合同委員会 災害時ヘリ在り方 WG 報告 (被災地内活動・受援)

前橋赤十字病院 高度救命救急センター 中村 光伸

PD8-5 搬送ニーズ及び特殊な搬送事例の検討 WG の進捗

久留米大学病院 高度救命救急センター 山下 典雄

企画：災害時航空機にかかわる検討委員会

■パネルディスカッション 9

1 日目 (3 月 6 日) 9:10 ~ 10:40

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

災害のこれまでとこれからを考える～トリアージ～

座長 森野 一真 (山形県立河北病院 救急科)
花木 芳洋 (日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院)

PD9-1 ポストパンデミックの地域医療を考える 培われた地域連携の展開

沖縄県立中部病院 高山 義浩

PD9-2 人命救助の目的達成のための CBRNE 災害対応におけるトリアージ改変

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 阿南 英明

PD9-3 多数熱傷患者のトリアージ

防衛医科大学校/日本熱傷学会災害・マスギャザリング検討委員会 清住 哲郎

PD9-4 外傷におけるトリアージの課題

日本医科大学大学院医学研究科 救急医学分野 横堀 将司

PD9-5 日本における JTAS Japan Triage and Acuity Scale の導入と災害医療への提案

富山大学名誉教授/中部国際医療センター救急部門集中治療部長/福島県立医科大学特任教授 奥寺 敬

PD9-6 トリアージ回帰

清恵会病院 救急医療センター 中尾 博之

■パネルディスカッション 10

1 日目 (3 月 6 日) 16:00 ~ 18:00

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

災害トリアージの実施者保護に向けた倫理的・法的・社会的検討

座長 富尾 淳 (国立保健医療科学院)

PD10-1 災害トリアージの実施者保護をめぐる論点の整理

東京大学/国立保健医療科学院 島田 裕平

PD10-2 災害時トリアージに関する医療倫理的検討

東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 中澤 栄輔

PD10-3 市民の災害時トリアージに対する認識と態度

東京大学 石橋 真帆

PD10-4 トリアージ従事者保護のために望ましい法的制度設計について

森・濱田松本法律事務所/カルフォルニア大学ロサンゼルス校/横浜市立大学 南谷 健太

PD10-5 社会全体で共有するための哲学的アプローチに基づくトリアージの概念、定義、要素の整理

東洋大学 情報連携学学術実業連携機構 森村 尚登

■パネルディスカッション 11

1 日目 (3 月 6 日) 16:00 ～ 18:00

第 10 会場 (第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B)

災害のこれまでとこれからを考える～ DPAT ～

座長 太刀川弘和 (筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学)
福生 泰久 (神経科浜松病院 医局)

PD11-1 DPAT (災害派遣精神医療チーム) の設立経緯

DPAT 事務局次長／半蔵門のびすこどもクリニック 河島 譲

PD11-2 能登半島地震の対応～支援側から～

厚生労働省委託事業 DPAT 事務局／獨協医科大学埼玉医療センター 五明佐也香

PD11-3 能登半島地震の対応～受援側から～

社会福祉法人 金沢市民生協会 ときわ病院 副院長 内藤 暢茂

PD11-4 南海トラフ地震等への対応検討のための研究結果と得られた課題

DPAT 事務局／神経科浜松病院／藤田医科大学 福生 泰久

PD11-5 愛知 DPAT のこれまでとこれから ～南海トラフ地震を見据えて～

愛知県精神医療センター 平澤 克己

■パネルディスカッション 12

2 日目 (3 月 7 日) 14:20 ～ 16:20

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

災害医療と産学連携

座長 中田 敬司 (神戸学院大学)
島田 二郎 (福島県立医科大学附属病院)

PD12-1 産学連携新技術検討委員会の意義について

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 中田 敬司

PD12-2 現場活動至上主義に基づく救急・災害技術・システムの社会実装支援

日本医科大学千葉北総病院／日本医科大学 救急医学教室／一般社団法人 日本医療・防災技術研究所 本村 友一

PD12-3 国立病院機構大阪医療センター (ONH) に設置されている全医療職が参加する
医療機器開発拠点 (Bi-AMPS) の取り組み

国立病院機構本部 DMAT 事務局 若井 聡智

PD12-4 災害医学における産学連携に必要な倫理的な課題

日本大学医学部 救急医学系 救急集中治療医学分野 山口 順子

PD12-5 災害医療と産学連携、その成功のカギはどこにあるか？ 法律家の目から。

小島国際法律事務所 光内 法雄

PD12-6 ベンチャー企業の視点から考える産官学連携のあり方

バーズ・ビュー株式会社 夏井 淳一

PD12-7 災害時医療機器運用と非常電源確保の課題解決に向けた産学官の協働アプローチ

岡山大学学術研究院 医歯薬学域 地域二次救急・災害医療推進講座 平山 隆浩

企画：産学連携新技術検討委員会

■パネルディスカッション 13

2 日目（3 月 7 日）10:30 ～ 12:00

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

災害のこれまでとこれからを考える～遺族対応・DMORT～

座長 吉永 和正（医療法人 協和会）
村上 典子（神戸赤十字病院 心療内科）

PD13-1 地方自治体職員への DMORT 研修の必要性についての検討

香川大学創造工学部 笠井 武志

PD13-2 一瞬にして家族を喪った遺族への対応
～遺体安置所での活動から得た学びと今後の課題～

四天王寺大学 山崎 達枝

PD13-3 心理職の立場から東日本大震災時の黒エリアの活動を追憶する
— 居ることの意味を考える —

石巻赤十字病院 医療技術部 臨床心理課 佐々木 暁子

PD13-4 災害時における葬儀社視点での遺族対応のポイントとエンバーマーの役割

株式会社 公益社 宇屋 貴

■パネルディスカッション 14

2 日目（3 月 7 日）8:30 ～ 10:00

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

災害のこれまでとこれからを考える～JRAT～

座長 落合 秀信（宮崎大学 医学部病態解析医学講座 救急・災害医学分野）
富岡 正雄（尼崎だいもつ病院）

PD14-1 JRAT：東日本大震災以降と今後の組織体制

東京湾岸リハビリテーション病院／一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会 近藤 国嗣

PD14-2 JRAT の人材とその育成

尼崎だいもつ病院 富岡 正雄

PD14-3 災害のこれまでとこれから～JRAT～
—能登半島地震における対応とその教訓—

石川県理学療法士会 会長 北谷 正浩

■パネルディスカッション 15

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 15:50

第 5 会場（交流センター 3 階 第 4 会議室）

災害時の日本の伝統医療（鍼灸・漢方薬等）の利活用

座長 阿南 英明（地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部）
朝日山一男（公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会）

PD15-1 鍼灸の効果機序、災害時の漢方の活用

東北大学病院 総合地域医療教育支援部 高山 真

PD15-2 令和 6 年能登半島地震における鍼灸マッサージ師チームによる災害支援活動の総括

DSAM 災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会、日本鍼灸師会 是元 佑太

PD15-3 被災地の鍼灸マッサージ支援受療者の声

東京都立大学／災害鍼灸マッサージプロジェクト 三輪 正敬

■パネルディスカッション 16

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 15:50

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

災害のこれまでとこれからを考える～アクセス対策～

座長 近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）
鈴木 教久（独立行政法人国立病院機構本部DMAT事務局）

PD16-1 災害対応初動期におけるアクセス経路情報の早期把握と共有に関する検討

国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター 花島 誠人

PD16-2 東日本大震災及び平成 28 年台風 10 号災害岩泉町におけるアクセス確保の困難事例

岩手医科大学医学部救急・災害医学講座 藤原 弘之

PD16-3 「能登半島地震、技術系ボラによる初動道路啓開～人命救助」

災害救援 N G O ヒューマンシールド神戸 吉村 誠司

PD16-4 アクセスのための連携と課題 ～令和 6 年能登半島地震における医療搬送を経験して～

福岡県済生会福岡総合病院／日本医科大学千葉北総病院 久城 正紀

■パネルディスカッション 17

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 16:00

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

災害のこれまでとこれからを考える～保健分野・DHEAT ～

座長 人見 嘉哲（北海道 保健福祉部）
三村 誠二（国立病院機構本部DMAT事務局）

PD17-1 令和 6 年能登半島地震における県内 DHEAT としての県庁支援活動

金沢市保健所 地域保健課 折坂 聡美

PD17-2 令和 6 年能登半島地震における輪島市での熊本県 DHEAT 第 1 班の活動と課題

熊本県北広域本部玉名地域振興局保健福祉環境部（熊本県有明保健所）／
熊本県北広域本部鹿本地域振興局保健福祉環境部（熊本県山鹿保健所） 服部希世子

PD17-3 DHEAT と保健師等チーム派遣調整に係る課題から、今後の災害への体制を考える

一般財団法人 日本公衆衛生協会 健康危機管理支援部 高岡 誠子

PD17-4 自治体支援について（仮）

北海道 保健福祉部 人見 嘉哲

PD17-5 能登半島地震における DHEAT と連携した DMAT の活動

国立病院機構本部 DMAT 事務局 三村 誠二

■パネルディスカッション 18

2 日目 (3 月 7 日) 16:50 ~ 18:20

第 9 会場 (イベント館 2 階 イベントホール 2)

災害医療におけるロボティクス活用 (ロボット学会と合同セッション)

座長 松野 文俊 (大阪工業大学 電子情報システム工学科)
長橋 和希 (医療法人伯鳳会東京曳舟病院 診療技術部救急救命士課)

PD18-1 震災や戦災の被災者等へのアザラシ型ロボット「パロ」による「心のケア」と、
今後の展望

国立研究開発法人産業技術総合研究所 柴田 崇徳

PD18-2 介護ロボットによる平時と災害時の支援強化
～超高齢社会におけるテクノロジー活用の課題と展望～

東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター 本田 幸夫

PD18-3 ロボット技術による災害医療支援

東京大学国際高等研究所 東京カレッジ 浅間 一

PD18-4 COVID-19 と能登半島地震と医工連携

日本医科大学 千葉北総病院／日本医科大学 救急医学講座 本村 友一

企画：日本ロボット学会との医工連携委員会

■パネルディスカッション 19

3 日目 (3 月 8 日) 14:50 ~ 16:20

第 2 会場 (コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B)

災害のこれまでとこれからを考える～透析・在宅医療～

座長 津田 雅庸 (愛知医科大学 災害医療研究センター)
是枝 大輔 (国立病院機構本部DMAT事務局 災害医療課)

PD19-1 2011 年 紀伊半島大水害における透析医療

新宮市立医療センター 腎臓内科 龍田 浩一

PD19-2 東日本大震災時の透析医療の継続のために行われた救援・支援活動からの教訓

東北大学 腎臓・高血圧内科 宮崎真理子

PD19-3 大災害における DMAT-JHAT の連携について

神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科 山家 敏彦

PD19-4 帝人の災害対応 (能登半島地震) について

帝人ヘルスケア株式会社 小森 友和

PD19-5 (一社) 日本産業・医療ガス協会 (会員企業) における災害時在宅酸素療法患者把握の
取り組み (DIG の実施も含め)

一般社団法人日本産業・医療ガス協会 吉川 勝英

■パネルディスカッション 20

3 日目（3 月 8 日）14:50 ～ 16:20

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

災害のこれまでとこれからを考える～災害時の外国人対応～

座長 尾北 賢治（おきたクリニック）

田治 明宏（広島大学 大学院医系科学研究科 公衆衛生学）

PD20-1 災害時の外国人診療支援の現状と課題～能登半島地震 / 洪水被災者支援活動を通じて

J-MIND(日本災害医療通訳ネットワーク) 益田 充

PD20-2 DS-LAT「災害時外国人支援団体」の全国統一トレーニング

—自治体・政府と連携した効果的な支援体制の構築—

広島大学 公衆衛生学 Yuka T Lysiuk

PD20-3 災害時の外国人医療対応と国際 EMT：東日本大震災からの教訓

兵庫県災害医療センター／NPO 法人 災害人道医療支援会 甲斐聡一郎

PD20-4 トルコ・シリア地震における国際 EMT と現地通訳者の協働に関する課題

広島大学 大学院医系科学研究科公衆衛生学 尾川 華子

■パネルディスカッション 21

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 10:00

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

災害産業保健

座長 佐々木孝治（厚生労働省 労働基準局安全衛生部労働衛生課）

立石清一郎（産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター）

指定発言 丸山 嘉一（日本赤十字社）

近藤 久禎（国立病院機構本部DMAT事務局）

PD21-1 令和 6 年能登半島地震における珠洲市総合病院職員に対する災害産業保健の取り組み

珠洲市総合病院 内科医長 出島 彰宏

PD21-2 行政職員の災害産業保健（仮）

北海道 保健福祉部 人見 嘉哲

PD21-3 支援者の災害産業保健

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学／国立病院機構 DMAT 事務局 久保 達彦

PD21-4 災害産業保健の現状と今後

産業医科大学 立石清一郎

■パネルディスカッション 22

3 日目（3 月 8 日）13:10 ～ 15:10

第 8 会場（イベント館 2 階 イベントホール 1）

災害のこれまでとこれからを考える～BCP 研修はどこへ行く？～

座長 堀内 義仁（国際医療福祉大学熱海病院 皮膚科）

本間 正人（鳥取大学医学部 器官制御外科学講座 救急・災害医学分野）

PD22-1 BCP 研修の課題と方向性

国立病院機構本部 DMAT 事務局 三村 誠二

PD22-2 近畿地方災害拠点病院における BCP 調査

大阪急性期・総合医療センター 西 健太

- PD22-3 福祉施設を対象とした BCP 研修の実際
～愛知県 介護施設等防災リーダー養成研修事業について～
愛知医科大学 柴田 隼人
- PD22-4 医療機関における感染症パンデミックに対する BCP
国立国際医療研究センター 国際感染症センター 守山 祐樹
- PD22-5 郡市医師会の事業継続計画（BCP）策定への提案―地域 BCP に向けて
市立八幡浜総合病院麻酔科 越智 元郎
- PD22-6 「機関型 BCP」から「連携型 BCP」への拡張
医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 救急・集中治療センター 合田 祥悟
- PD22-7 災害対策を病院の「文化」にするための BCP 研修のあり方
順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科 岡本 健
- PD22-8 医療・介護現場の実践知に基づく現場主導型 BCP 研修プログラムの開発
東京都立病院機構 法人本部 中島 康
- PD22-9 地域、医療機関・高齢者福祉施設との連携をとるために BCP 研修では客観的評価指標
が必要である
清恵会病院 救急医療センター 中尾 博之
- PD22-10 全国大学病院における BCP 策定状況の現状と課題
大阪医科薬科大学 医学部医学科 成 仁脩

企画：BCP 研修検討委員会

■パネルディスカッション 23

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 10:00

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

避難者を幸せにする避難所

座長 恩部 陽弥（鳥取大学医学部附属病院 看護部）
細川 浩（医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 リハビリテーション科）

- PD23-1 イタリアの避難所対応から学ぶ日本の避難所環境改善への提案
国際医療福祉大学大学院 災害医療分野 石井美恵子
- PD23-2 医療救護活動チームには是非とも避難所支援に関する学びをお願いしたい
長浜赤十字病院 中村 誠昌
- PD23-3 「『ここにいていい』と思える場所ーすべての人に開かれた珠洲市の避難所ー」
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン 菊池 友枝
- PD23-4 安心・安全な避難所づくりのために JRAT ができること
医療法人社団木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院／
熊本県災害リハビリテーション推進協議会（熊本 JRAT）事務局 佐藤 亮
- PD23-5 令和 6 年能登半島地震における自助互助による被災者支援活動について
珠洲市健康増進センター 奥佐 千恵

企画：BHELP 運営委員会

■パネルディスカッション 24

3 日目（3 月 8 日）13:10 ～ 14:40

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

災害のこれまでとこれからを考える～災害看護～

座長 高村 ゆ希（東京科学大学病院）
小林 賢吾（熊本赤十字病院）

PD24-1 令和 6 年能登半島地震における他職種・他機関連携の実践と課題

国立病院機構埼玉病院 江津 繁

PD24-2 取り下げ

PD24-3 令和 6 年度能登半島地震における 一般避難所の課題（要配慮者への対応）

山梨大学大学院／特定非営利活動法人 災害人道医療支援会（HuMA） 三浦由紀子

PD24-4 災害支援ナースの派遣調整の実践と課題

公益社団法人 日本看護協会 久保 祐子

PD24-5 能登半島地震における公衆衛生看護活動の実践と課題

国立保健医療科学院 奥田 博子

企画：災害看護委員会

■パネルディスカッション 25

3 日目（3 月 8 日）14:50 ～ 16:20

第 9 会場（イベント館 2 階 イベントホール 2）

災害のこれまでとこれからを考える～福祉分野～

座長 石川 敏仁（枳記念病院 災害救急医療部）
中野めぐみ（国立病院機構 厚生労働省DMAT事務局）

PD25-1 医療ソーシャルワーカーとしての災害支援と社会福祉施設支援の重要性

高知大学医学部附属病院 高橋 武史

PD25-2 KISA2 隊による能登半島地震への支援からみえてきた
医療と介護・福祉の連携部隊への教育と対策

大阪府 KISA2 隊 辻野 悦次

PD25-3 災害時における医療ソーシャルワーカーの活動
ー常駐ソーシャルワーカーによる中長期支援の課題ー

日本医療大学総合福祉学部／公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会 笹岡 真弓

PD25-4 災害派遣福祉チームの活動とチーム員養成

神戸学院大学総合リハビリテーション学部 伊藤 隆博

PD25-5 令和 6 年能登半島地震における石川県保健医療福祉調整本部 高齢者施設班の活動

公立松任石川中央病院 災害医療対策センター 安間 圭一

PD25-6 より機能的な災害時対応を目的とした平時からの都市部における医療・介護・福祉・
行政の連携の強化への取り組みと課題

国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター 石田健一郎

■ D24H 体験ワークショップ

1 日目（3 月 6 日）10:50 ～ 11:50

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

D24H 災害時保健医療福祉活動支援システム 体験ワークショップ

司会 市川 学（芝浦工業大学）

■ ワークショップ 1

1 日目（3 月 6 日）15:00 ～ 16:30

特別企画会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C）

南海トラフ地震に俯瞰する～愛知県の災害拠点病院は～

座長 北川 喜己（名古屋掖済会病院 病院長）

福和 伸夫（名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長）

■ ワークショップ 2

2 日目（3 月 7 日）8:30 ～ 10:00

特別企画会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール C）

南海トラフ地震に俯瞰する～その時、医療機関は～

座長 福和 伸夫（名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長）

稲田 真治（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 救急科）

■ワークショップ3

3 日目（3 月 8 日）8:30 ～ 9:30

第 10 会場（第 1 展示館 1 階 第 1 展示館ホール B）

病院災害対策 正直なにしたらいいの？

座長 山下 和範（長崎大学病院 災害医療支援室）
鈴木 健介（日本体育大学大学院 保健医療学研究科 救急災害医療学専攻）

WS3-1

国立病院機構 災害医療センター 中央放射線部 小西英一郎

WS3-2

大阪府立中河内救命救急センター 臨床工学室 西島 章

WS3-3

亀田総合病院 太田麻衣子

WS3-4

千葉県総合救急災害医療センター リハビリテーション科 伊崎田和歌

WS3-5

鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 涌嶋伴之助

WS3-6

国際医療福祉大学大学院 災害医療分野／災害保健医療研究センター 内海 清乃

WS3-7

ピースウィンズジャパン 稲葉 基高

企画：多職種連携推進委員会

■学生セッション 1

3 日目 (3 月 8 日) 8:30 ~ 10:00

第 4 会場 (交流センター 3 階 第 3 会議室)

DMAS セッション

座長 佐々木 柚李 (札幌医科大学 医学部医学科4年)
藤田 基生 (東北大学病院 高度救命救急センター)

学生セッション1-1 日本災害医学会学生部会 (日本 DMAS) の今と未来

東京医科大学 医学部 医学科 黒田 えいみ

学生セッション1-2 青森県における原子力災害医療訓練の動向

弘前大学医学部保健学科 河村 悠未

学生セッション1-3 保健医療系学生における災害医療学習経験と意欲の相関分析

弘前大学医学部保健学科 中松 樹

学生セッション1-4 救護医療体制下でのボランティアに DMAS 会員が活動することにおける学びと 支部活動への取り組み

名古屋市立大学看護学部看護学科 樋山 咲乃

学生セッション1-5 市民避難訓練における医学部学生の参加意義について 宮崎県日南市より

宮崎大学 医学部医学科 額田 恵璃

企画：学生部会支援委員会

■学生セッション 2

3 日目 (3 月 8 日) 16:30 ~ 17:30

第 4 会場 (交流センター 3 階 第 3 会議室)

DMAS 企画 第 12 回学生フォーラム 座談会 (災害医療と多機関連携)

座長 久野 将宗 (日本医科大学多摩永山病院)
松村 遼到 (日本DMAS / 琉球大学医学部保健学科)

座談会 -1

国立病院機構災害医療センター 大友 康裕

座談会 -2

防衛医科大学校 清住 哲郎

座談会 -3

日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 本村 友一

座談会 -4

東京科学大学病院 高村 ゆ希

座談会 -5

福岡大学 薬学部 救急・災害医療薬学研究室 江川 孝

■日本災害医学会・WHO 神戸センター合同セッション WKC フォーラム 2025

1 日目（3 月 6 日）14:20 ～ 16:20

第 2 会場（コンベンションセンター 4 階 コンベンションホール B）

災害医療における国際協力の強化：

WADEM2025 東京大会に向けて、災害大国日本からの国際的発信・寄与の道を探る

司会 茅野 龍馬（WHO健康開発総合研究センター）

開会の辞

日本災害医学会代表理事／鳥取大学 本間 正人
日本災害医学会国際委員会／広島大学 久保 達彦

第一部 講演

WHO1 開催背景、学術連携の強化：WHO および WADEM への日本の貢献

WHO 健康開発総合研究センター 茅野 龍馬

WHO2 災害対応ミッションと国際的エンゲージメントの促進：
DMAT、JDR、NDMS からの洞察

厚生労働省 DMAT 事務局 豊國 義樹

WHO3 国際緊急医療チーム（EMT）への貢献とリーダーシップ育成、
ASEAN との協力研究を通じた日本の知見の国際発信

日本災害医学会国際委員会／広島大学 久保 達彦

WHO4 TBA

福島県立医科大学 坪倉 正治

第二部 パネルディスカッション 自然災害の多い日本からの国際貢献への道筋とアプローチ

座長 小井土雄一（厚生労働省DMAT事務局）
中山 伸一（兵庫県災害医療センター）

WHO-PD1

WHO 健康開発総合研究センター 茅野 龍馬

WHO-PD2

日本災害医学会国際委員会／広島大学 久保 達彦

WHO-PD3

厚生労働省 DMAT 事務局 豊國 義樹

WHO-PD4

福島県立医科大学 坪倉 正治

指定発言、総括と提言

指定発言

国立病院機構災害医療センター 大友 康裕
日本災害医学会理事／国際医療福祉大学 石井美恵子

総括と提言

WHO 健康開発総合研究センター 茅野 龍馬

■国際委員会企画

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 15:20

第 3 会場（交流センター 3 階 会議ホール）

WHO WPRO

座長 久保 達彦（JADM国際委員会）
幅野由樹子（国際協力機構 国際緊急援助隊事務局）

WHO Emergency Medical Teams (EMT) in WHO's Western Pacific Region & Reflections on
the EMT Response to the Gaza Crisis

World Health Organization, Western Pacific Regional Office Sean Thomas Casey

企画：国際委員会

■企画講習会

2 日目（3 月 7 日）14:20 ～ 17:20

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

日本 DMORT の活動の実際：講演とロールプレイ

座長 村上 典子（神戸赤十字病院 心療内科）

企画講習会 -1 DMORT の概要

日本 DMORT 理事長 吉永 和正

企画講習会 -2 警察の関与と死体検案

日本 DMORT 理事 長崎 靖

企画講習会 -3 災害急性期の遺族心理とその対応

一般社団法人日本 DMORT / 神戸赤十字病院心療内科 村上 典子

企画講習会 -4 令和 6 年能登半島地震での活動報告

日本 DMORT 正会員 久保 勝俊

■ ELSI 検討委員会企画

3 日目（3 月 8 日）13:10 ～ 14:25

第 4 会場（交流センター 3 階 第 3 会議室）

災害時の ELSI：倫理的・法的・社会的課題と向き合う

座長 石川 秀樹（東京都立大学 健康福祉学部）

ELSI-1 災害医療における ELSI の課題

国立病院機構本部 DMAT 事務局 近藤 久禎

ELSI-2 感染症災害における倫理的課題

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 阿南 英明

ELSI-3 災害医療の現場から見てきた災害時の傷病者トリアージの法律上の課題

東北大学 石井 正

ELSI-4 災害時の高齢者救助におけるトリアージの課題と ELSI：
能登半島地震 124 時間救助事例を通じた考察

ピースウィンズ・ジャパン 稲葉 基高

ELSI-5 感染症クラスター施設支援から考える ELSI

那覇市立病院 赤平 幸奈

ELSI-6 医療・福祉専門職従事者が介入する避難所の転倒事例から考える ELSI

国立医療福祉大学大学院 / 国際医療福祉大学大学院 災害保健医療研究センター 内海 清乃

ELSI-7 救護者保護法制に関する生命倫理学からの一意見

熊本市役所 総務局 行政管理部 労務厚生課 藤井 可

ELSI-8 多数傷病者事案の事後報告に係る倫理上の課題
～福知山花火事件の報告を通して～

兵庫県災害医療センター 石原 諭

企画：ELSI 検討委員会